

[跡取りが居ない!! 危機=好機 ?]

[迫り来る法改正と時代変化の荒波-46]

<序文> 随分前から、様々なメディアを通して警鐘が鳴らされて来た地方の衰退。そのたびに「ムラ起こし」やら「まちおこし」、「活性化」に「再生」・「創生」等、それらしい修飾語が施された経済政策が打たれてきました。

が、結局のところ、そのどれもがカンフル剤の域を出なかった様に思われます。数十倍に膨らんだ経済規模やグローバル化等の時代状況、IoTに代表される技術革新、道路網や流通網、通信網の飛躍的拡充が示すインフラ整備等、一概には比べられない諸条件の違いはあるにしろ、何れも60年代前半の「所得倍増計画」や、その後を引き継いだ70年代初頭の「列島改造論」程インパクトのある施策とはならず、そうこうするうちに少子化、高齢化の大波に飲み込まれるように、今日の、ある意味切羽詰まった状況を招いてしまったと云えます。

確かに、都市部に集中する人材のU・Iターン或いは地元定着を促す意図も孕んだ、**地方への投資と環境整備の試みであった「列島改造」**が、却って地方から都市部への逆流現象（ストロー効果）を導き、現在にいたる**「都鄙間格差」**や、そこから派生したとも云われる**「少子化」**、その少子化の影響で否応なく**相対的に比率が上昇する「高齢化」**等々を惹き起こす一因となったのは間違いない処でしょうが、全てがそこに起因するというのは、さすがに飛躍し過ぎた議論の様な気がします。私共が向き合う課題が余りに大きく、重層的・複合的であればあるほど、幾ら犯人探しをしても原因の特定は困難であり、又、この事態を拱手傍観しているだけでは、今後の道筋は一向に見えて参りません。

30年先までは兎も角、せめて5年、あわよくば10年先までの、何らかの指標なり手掛かりがあれば、心構えも違って来る筈。どんなに優れた経営者でも、どんなに優れたビジネスモデルでも、いつまでも永続する事は出来ません。ある時期、限られた範囲で事業活動の一端に関わり或いは時代潮流に乗ったに過ぎないからです。それでもその間は、**自分の価値観に基づき、知り得た限りの情報を活用し、自分がタッチしない或いはできない領域は、他の者に分担してもらるか委ねるかし乍ら、その時点で良かれと考えた決断を下す**。そして、状況が変化したら、微調整を施しつつ軌道修正を図る**一経営とはそれに尽きる**のではないかと思います。にも拘わらず、今、**跡取り（後継者）が居ないとする中小事業者は全体の66%**に及び、売上規模10億~100億の企業ですら、その57%が後継者不在に直面していると回答しています。何故、後継者がいないのか？一理由として挙げられていたのは、「身内に該当者がいない」「いてもその意思がない」「適任者がいない」という答え。どうやら、**この問題の本質を解くカギは、第三の答え**にこそ潜んでいそうな気がします。

本号では、できる限り、それを検証してみたいと思います。